



No.372
4月号

あたごふれあい人権文化センターだより 2026年4月1日発行

発行：あたごふれあい人権文化センター
住所：〒682-0846
鳥取県倉吉市鴨河内1818-2
電話：0858-28-5440 (FAX 兼)
E-Mail：atago@ncn-k.net

あたごふれあい人権文化センターだより「心ゆたかに」
に関するご意見・ご要望をお寄せください。

『第7次倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画』を策定しました

この計画は、令和8年度から令和12年度までの5年間の計画期間とし、『お互いを認め合い、安心して暮らせる人権尊重のまちづくり』を基本理念のもと、人権意識が確立され、人権が尊重されている状態を目的として策定しました。

あたごふれあい人権文化センターの取組

あたごふれあい人権文化センターでは、福祉の向上やあらゆる人権課題の解決に向けて事業を行っています。

令和8年度も、人とのつながりを大切にしながら、幅広い世代を対象とした様々な事業に取り組んでまいります。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。どうぞお気軽にお越しください。



◆主なセンター事業◆

- 《啓発事業》 部落差別をはじめとする様々な人権課題への理解を深めるため、センターだより『心ゆたかに』の発行や、人権問題を考える講演会、視聴覚教材を活用した学習会などを行います。
- 《交流事業》 未就学児から高齢者まで、幅広い世代を対象とした交流会や学習会、サロンを開催します。
 - ・上小鴨保育園、関金保育園との交流会
 - ・上小鴨学童クラブとの交流会
 - ・あたごふれあいサロン(月1回開催)
- 《相談事業》 人権問題や生活に関する様々なご相談をお受けします。遠慮なくご相談ください。

4月のあたごふれあいサロン

「いつまでも自分らしく、健やかに」をテーマに、『元気アップ講座』を開催します。毎日をより健やかに過ごすためのヒントを学んだり、参加者同士で楽しく交流したりしながら、「自分をいたわる」ことも大切にしていきましょう。どうぞお気軽にご参加ください。

日時：4月24日(金) 13:30~

内容：元気アップ講座 ①「骨の健康のはなし」

参加費：100円(お茶代)

※参加ご希望の方は、4月17日(金)までに、あたごふれあい人権文化センターへお電話ください。



今後の『元気アップ講座』の予定

(日程が変更になる場合がありますので、センターだよりでご確認ください。)

②5月22日(金) 健腸教室

③8月21日(金) 体力測定、口の健康について

④令和9年3月(実施日未定) 体力測定、理学療法士による運動指導

差別落書きは重大な人権侵害です！

※差別発言に遭遇した場合や差別落書きを発見した場合、また悩みごと、生活に困っていることなど、人権政策課または最寄りの人権文化センターへご相談ください。

人権政策課

TEL 0858-22-8130

あたごふれあい人権文化センター

TEL 0858-28-5440



自分らしく生きる 多様性が尊重される社会を目指して

最近、多様性（ダイバーシティ）という言葉をよく耳にしますが、あなたはどんなイメージを持っていますか。私たちの暮らす社会は、性別や国籍、年齢、障がいの有無、価値観などが異なった人で構成されています。今回は、なぜ多様性を尊重する社会が大事なのかについて考えてみたいと思います。

詩人 金子みすゞの詩から

昭和初期に活躍した詩人 金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」という有名な詩があります。この詩は、百年という時を超えた今でも、多様性を尊重する言葉として心に刻まれています。



「金子みすゞ 童謡全集」
(JULIA 出版局)

みんなちがって、みんないい。

鈴と、小鳥と、それから私、

たくさんな唄は知らないよ。

あの鳴る鈴は私のように、

きれいな音は出ないけど、

私がかからだをゆすつても、

地面^{じべた}を速くは走れない。

飛べる小鳥は私のように、

お空はちっとも飛べないが、

私が両手をひろげても、

「私と小鳥と鈴と」

最後の言葉「みんなちがってみんないい」は大事な意味を持っています。「あなたはあなたでいい」と存在そのものが素晴らしい、それぞれに役割と価値があると話しかけているようです。

誰もが輝ける社会のメリット

例えば、背景の異なる人がいればいるほど意見も多くなり、お互いが通じ合うための労力や時間はかかります。しかし、互いの個性が認め合える社会では、次のようなメリットが考えられます。

- 自分とは違う見方を持つ人がいると、「そんな考えや発想はなかった」と新しい発見が生まれる。
- 異なる個性や能力が組み合わせたり、組織や地域社会の大きな力になる。
- 「普通」や「当たり前」を押し付けないことで、生きづらさを感じる人が減り、安心して過ごせるようになる。
- 周りにさまざまな人がいるからこそ、「自分は自分でいい」と自分を肯定できるようになる。

本市の取り組み：4月からジェンダーレス制服に

市内の中学校では、性別に関わらず着用できる「ジェンダーレス制服」の導入が始まりました。市内5校で統一された制服は、上着がブレザーに変わり、スラックスやスカート、リボンやネクタイを性別問わずに選択できます。「性別で制服が決まる」のではなく、「自分の好きなスタイルが選べる」ことで、生徒一人ひとりが自分らしく学校生活を送ることができます。



誰もが自分らしく生きられる社会に向けて

こうした社会の実現は「言うは易く行うは難し」です。ありのままを認め合う環境は、お互いの人権が尊重されることが土台となり、一朝一夕に完成するものではありません。

しかし、私たち一人ひとりが、地域や職場などで、違いを理由に攻撃や排除をせず、「ありのままを受け入れる」「誰かの人権を傷つけていないか」と考え行動すること。その積み重ねが、自分自身の生き方を見つめ直し、誰もが自分らしく生きられる社会についても考えるきっかけになるのではないのでしょうか。